

どうぞよろしくお願ひします。

さてそれでは第10号に入りますね。どうぞ宜しくお願ひ致します。

□□No1 タイ株初心者編です■ ■

タイ・インドシナ半島の物流に関してのお話をします。

アジア各国では、中国とインドを含めて高い経済成長を続けている国が増加しています。この各国間の輸出入で人やモノの往来が加速度的に伸びています。

2006年12月にタイとラオスの国境にて「第2メコン国際橋」の完成がありました。
これまで陸上輸送では難しかった各国を通じての道路網が完成されたこととなります。

現在東南アジアのインドシナ半島では各国の道路網整備によって

- 1・「東西経済回廊」
- 2・「南北経済回廊」
- 3・「上海ーシンガポール7000Km 輸送網」

がほぼ完成の域に近づいています。

「東西経済回廊」はベトナム中部最大の港湾都市、ダナンを起点とし、ミャンマーのアンダマン海に面するモーラマインまでの、ほぼ北緯17度線に沿った全長1500Kmの道路網になります。
1998年10月、マニラで開かれた大メコン圏地域（GMS：グレート・メコン・サブリージョン）閣僚会議で優先課題のプロジェクトとして実施することが決定、タイーラオスの第2メコン国際橋を含めた関連のプロジェクトが推進されてきました。

この東西経済回廊は、一部が日本の無償援助、加えてアジア開発銀行（ADB）の資金で建設・改修されました。

「南北経済回廊」ではアジア開発銀行が中心となってインドシナ半島を南北に渡って道路網を整備する事業です。

中国の昆明～バンコク、昆明～ハイフォン（ベトナム）の2ルートがあり、完成すればいままでもメコン川が担っていたタイ～中国間、ベトナム～中国間の物流を代替することが可能と期待されています。

このほかにも、バンコクからホーチミン市を結ぶ

「第2東西経済回廊（南部経済回廊）」も計画が浮上していて、各経済回廊の開通の後にはインドシナ半島地域経済の活性化が大きく刺激されることが予想されます。

「上海ーシンガポール7000Km 輸送網」では
日経新聞2月27日版でも紹介されていました。上海ー深センーハノイー
第2メコン橋ーバンコクーシンガポール間をおよそ10日で輸送可能となります。
船輸送では2週間以上かかっていた輸送期間が大幅に短縮できる見通しです。

ただ2007年1月時点ではまだ問題もあります。

問題点1

「東西経済回廊」を直ちに物流ルートとして使おうという日系企業はまだ少ないです。
海路の場合にかかる輸送費用と比べて、陸路では燃料費や復路で積荷がない場合で
輸送コストがおよそ3倍かかる計算になるためです。

問題点2

輸送トラックがラオスへ入った際に
輸出入通関で積み替え作業をしなければならないことです。
書類審査と現物検査の二つの手続きを一度で行うワンストップ化は
現在調整段階にあるそうです。2008年までには実現可能とされています。

アジア開発銀行によれば
東西経済回廊・南北経済回廊に関連した農業セクター、
エネルギーセクター、インフラ関連、通信セクター、貿易促進など、
各分野のプロジェクト案件は50件以上。
今後は東西経済回廊に沿った天然ガス供給システムなども計画されています。

2008年以降、インドシナ半島での東西経済回廊の役割は
物流幹線としての重要インフラとして成長していくと見込まれています。

管理人のコメント：

この東西経済回廊をつなげる「第2メコン国際橋」の完成には
かなりの年月がかかったそうです。建設に際しては三井住友建設も
関わっています。日本では小さいニュースでしたが
2005年に日本人のかたも建設現場の事故でお亡くなりになっています。

<NEWSCLIP より提供>

「タイ東北部ムクダハンとラオス中南部サバナケットを結ぶ「第2メコン国際橋」の
建設現場でクレーンが横転して橋の一部が崩落した。
作業中の日本人ら2人が死亡し、
日本人2人を含む8人が川に転落して行方不明となった。
他に日本人2人を含む10人が重軽傷を負った。」

御冥福をお祈りするとともに
こう言った人々の支えによって完成した第2メコン国際橋の話も
後世に伝えるべきだと思いました。

□□N○2 タイ株上級者編です■

過去のタイ株関連メルマガであまり触れられてなかったコーナーを作りました。

●● 009 LH です。○○

不動産開発企業です。タイで最大手の不動産開発・販売会社です。

ランド&ハウス (LH) 社は、タイ国で資本金の規模で第1位の不動産分譲住宅開発業者です。

メインは住宅団地 一戸建の開発を重視していますが、

さまざまな種類の不動産を扱っています。

オーナーはアナン・アサワポーキン氏。

タイでは2006年度タイの株式資産長者番付で第1位の不動産長者です。

LHは不動産部門で現在もシェアN○1で営業収益率、投資回転率共に業界のTOPレベルであり、タイ国内の不動産販売シェア(40%強)を誇っていてダントツの数字であります。

ランド&ハウス社の子会社は、

不動産金融・ローンのLHリテール銀行、

ホームセンターのホームプロ (HMPRO)、

高級住宅・オフィスビル開発のクオリティハウス (QH)、

建材企業のクオリティコンストラクション (Q-CON) などがあります。

2006年度のランド&ハウスの決算発表では

売上げが195億5200万バーツで前年比でマイナス18.1%減で

純利益で32億4700万バーツで前年比マイナス36.5%減で減収減益の結果でした。

2006年度は政情不安、原油高、金利上昇などで販売が伸び悩み、

消費者景況感も大幅ダウンしたことを理由に挙げています。

ただし、センシリ (SIRI) : 減収、LPN デベロップメント (LPN) : 増収、

スパライ (SPALI) : 増収など、ランドハウスに次ぐ

企業群では伸びた会社もあったため、

2007年度は勝ち組、負け組の二極化が進むと見られています。

不動産概況を振り返ると2006年は政情不安などを受け、

バンコク都内の不動産市場はおおむね低調でした。

特に、開発業者が手掛ける建売住宅の供給数が減少。

高級物件離れも進み、中低価格帯に人気が集まりました。

2007年度はマクロ経済が改善し、消費者景況感も回復すると予測されていて、

不動産市場拡大のペースが2006年を上回るペースで進むと期待されています。

バンコク都内の戸建て住宅とタウンハウス (低層集合住宅) の

新規供給数は成長速度は減速しながらも伸びる見通しです。

戸建てでは注文住宅が増えているのですが、建売住宅の新規供給は下がっている

数字が出ています。

不動産開発業者は収益が悪化する傾向にあり、
2006年後半には開発業者各社で販売促進キャンペーンが活発化しました。
2007年は金利低下や原油価格下落により、市況が回復すると予測。引き続き
中級物件に注目が集まる見通しです。

コンドミニアム（分譲マンション）新規物件数では2005年からおよそ12%増加しました。
新規物件の増加により、入居率は2005年同期からわずかに低下しました。
高架モノレール（BTS/スカイトレイン）や
地下鉄の駅に近い物件の人気の高まると予測されています。

オフィス・不動産の部門では、中央商業地区（CBD）では入居率が86%と
高水準を維持しており、オフィス賃貸料は前年比で平均14%上昇しました。
新規供給が増える2007年後半には需給関係が改善される見通しです。

□□ No 3 タイ国内ニュース編です■■■

今回はタイ国内ニュースはお休みで
海外投資に関心の高いかたに向けてのお知らせでございます。

なかなか国をまたいだ形での投資の情報を交換する機会がないということ

- ・海外投資は情報が少ない
 - ・海外投資は管理が大変
 - ・海外投資はつねに世界にアンテナを張らなくてはいけない
- というような情報不足的な部分が多く発生するとのこと。

本や講演会を機会にそういった人々の輪を広げようと言う事で
わたくしの海外投資の大先輩である石田さんが
<http://kowloon.livedoor.biz/archives/50735220.html>
登録制の情報交換の場所を立ち上げるそうです。

サービス名【World Investors】

～つながれ。海外投資家たち。海外分散投資に燃える同志が集まる SNS～
<http://www.worldinvestors.jp>

正式リリースは5月を予定していますが、3月2日（金）発売の¥SPA!
（エンスパ・扶桑社）で紹介記事が掲載されますので、先行仮登録サイトを公開
しています。

<http://www.worldinvestors.jp>

もう一つタイ株に御関心がある方には
ユナイテッド証券(タイで日系の会社が経営する証券会社)

で東京・大阪にてタイ証券取引所と合同開催で行われるそうです。

無料ですのでお気軽に参加できます。

今後さまざまな地域で海外投資が流行する兆しがありますが
やはりいろいろとお話を聞いてみて情報を取捨選択し、体験した人、
実際取引している人の話を聞いてみて、それから判断していくのが
スマートなやり方ではないかなと考えます。

以下転載となります。

ユナイテッドワールド証券主催でセミナーを開催いたします。
申し込みは下記の HP より受付いたします。参加お待ちしております。

<http://www2.uwg.co.jp/pub/seminar2007/20070310thailand/>

□□N o 4 追伸です ■■

>>> 1 >>>

さて、わたくし事ながら、続けてお知らせでございます。

4月16日月曜日東京都内各書店にてタイ株の各企業の銘柄を解説・データを掲載した
「タイ株優良株マニュアル 41 社」を出版することになりました。

上記のタイトルは（仮）ですので変更になる可能性があります。

出版元は「パンローリング社」になります。

書籍の価格は少し高めの、税込 1,890 円になりました。

本当は調査する会社を 100 社くらいどーんとやりたかったのですが
時間が足りないのもありまして泣く泣く削りました。

この本も初版本をご購入いただいた方には
素敵なプレゼントを差し上げる予定です。

>>> 2 >>>

続いて タイ株セミナー 4月15日(日)の続報です。

詳細はこちらになります。

<http://www.financialacademy.jp/seminar/1267.html>

3月10日(土)までが早期割引キャンペーンだそうでした、
この間にお申し込みいただくと 3000円割引で申し込み可能だそうです。

SPA! のマネー雑誌のほうでもタイ株特集をされていたそうで、
タイ株も認知度が高まっていくことが予想されます。

あとですね、

「どんな内容を話されますか？」という質問がありましたので
お答え致します。こんな感じで進めます。

- ◎ 海外投資のメリットとはどんなことがあるのか？
- ◎ その中でも東南アジア諸国連合 ASEAN の中心国タイってどんな国なのか？
- ◎ タイ現地の最新経済情報は？
- ◎ ASEAN は今後どう発展していくのか？
- ◎ タイと各国の FTA・EPA の進捗具合、メリット&デメリットはどのようなものが？
- ◎ 2006年度のタイ経済を振り返って数々のポイントを解説！
- ◎ タクシン前首相が行ってきた政策タクシノミクスとは何だったのか？
- ◎ そして暫定政権が今後行うスケジュールは？

- ◎ 今後経済大国へ向かう中国と人口急増国家インドに挟まれた ASEAN とタイはどう進むのか？
- ◎ 2006年度後半 インド株・香港株、ベトナム株、は最高値を更新、
タイ株はどう動いたのか？
- ◎ 2007年のこの時点でタイ株投資をするメリット・デメリットとは？
- ◎ タイ株をどうやって取引するのがよいのか？
またその開設方法はどうすればよいのか？

- ◎ タイの政治・文化は日本とどう違うのか？
- ◎ タイ側から見た日本はどう映っているのか？

後半は各セクターごとの解説と個別銘柄の詳細を話していきます。

正直、証券会社のセミナーではないので

「この銘柄を推奨します」「この会社の銘柄は確実に来ます！」
と言うセミナーではありません。

ほかの方がまだ取り組んでいないタイ株をより詳細に知りたい方、
実際取引した経験を知りたい方にはうってつけのセミナーになります。裏話満載です。

実際にタイ株取引を3年近くしている人間が語る情報を凝縮して
学べる貴重な機会だと思いますので
ご関心ある方はぜひホームページをのぞいてみてください。

<http://www.financialacademy.jp/seminar/1267.html>

早期割引は3月10日（土曜）までになっております。

さて今回も最後までお読み頂きまして有難うございました。

>>> 3 >>>

